

## 製鉄起業祭

青空吸いつくし るいろいと鉄のまがわ

深紅の鉄流れ 地平線引くと、ころがな

鉄に殉じたみたままりの

あ、けんらんたる火花よ

ジンタがよびつづける広場の花

ふるえやまない

椎の実ぬくう抱いて

ジンタのはずれ歩いている

青木 比呂

(昭和二十二年〜四十六年在職)

御句碑の湖穂やかに冬日和

(湖西浮御堂)

那智山の滝畏れむや谿紅葉

(那智の滝)

雲海や切れ間にのぞく神の里

(高千穂)

稲木組む海へと傾ぎ千枚田

(能登半島)

刈田焼く磐梯風の夕べかな

(会津磐梯山)

白石宏事 (昭和二十九年卒)

「菁莪」つれづれ

前田 晃 稔

(昭和三十四年卒)

意味の言葉です。

私達のなかの多くの才

ある人々がすすくと

育つて、芳香を放ち美し

い花をつけるのを期待し

てこの名をつけました。」

「菁莪」創刊は昭和二十七

年二月ですが、上記は「命

名の由来」です。藤井勝

美先生、青木先生の指導

により、密度の高い文芸

誌として昭和四十五年ま

で毎年発行され、昭和四

十六年から五十四年迄休

刊しましたが、五十五年

より生徒会誌として復刊、

今春(平成十九年)四十

七号を発行しています。

「点と瞬間」

「空気の澄んだ晴れた夜、

数万の星が燦然と輝いて

居る大空をちつと仰いで

いると、宇宙の無限の広

さを感じると共に我々の

生存する土地が宇宙の無

限の空間に比べると一点

に過ぎないことを感ずる。

又人生五十年と云われる

日々の生活から考察する

と永いようだけれども無

限の負から無限の正に流

れる宇宙の生命に比べる

と我々の一生も瞬間に過

ぎないだろう。今日生を

共にして居る者は、全く

此の点と瞬間が一致して

生きて居るのであつて、

相互の間に何か深い目に

見えない縁の糸で括り合

わされているものと信じ

られる。こゝに思いを致

す時個人間の争いも国民

と国民の闘争も皆大自然

の理に逆らうものである

ことを痛感する。(後略)」

創刊号に寄せた小倉半

校長の巻頭言の一部です。

職員・生徒に語りかける

校長の篤き志を肉声で聞

く思いがいたします。